

海禅院石室調査で発見 「お万の方」の遺髪 和歌山市民団体発表

■紀州藩主・徳川頼宣の生母

紀州徳川家ゆかりの寺院「海禅院」（和歌山市和歌浦中）が建立された妹背（いもせ）山の研究などに取り組む市民団体「妹背山護持顕彰会」は27日、同市内で会見し、同寺院敷地内の多宝塔の下の石室から見つかった遺髪は、徳川家康の側室で紀州藩初代藩主の徳川頼宣の生母「お万の方」のものとみられると発表した。

日蓮宗の寺院である海禅院は万葉の景勝地、和歌の浦の妹背山に建てられ、お万の方は家康の三十三回忌に際して、法華経を記した経石を石室に納めたとされる。頼宣は母親の死後、多宝塔を建立。多宝塔の下の石室には全国の大名家や地元の庶民が記した経石が約15万個埋められていたという。

同会は平成16年10月から、多宝塔の下の石室（高さ約4メートル、縦約1・6メートル、横約2・4メートル）を調査。同月18日に石室の中央付近から2つ折りにされた遺髪（長さ12・5センチ、幅3・4センチ、厚さ1・7センチ）が見つかった。

同会の顧問を務める菅原正明・県立博物館元副館長や、藺田香融・関西大学名誉教授らが文献などで調査。その結果、遺髪は家康の死後に剃髪したときのもので、日蓮宗の熱心な信仰者でもあった「お万の方」の髪の毛である可能性が高いという。

菅原さんは「発見時は湿っており、直前に切ったような状態だった。状況から本物であることはほぼ間違いなく、歴史的にも貴重」と話している。

（2011年11月28日 産経新聞より転載）